

Aグループ

討議の概要

【計画の体系について】

- ・計画の体系は、おおむね下記記載の事務局（案）でよいとされました。
- ・「基本目標に基づく政策」の中の、「おわせを伝え、地域を担う人材の育成」について、「おわせの歴史・文化」と文言を追加したほうが良いという意見がありました。

【とんがり帽子の事業について】

- ・尾鷲市においては、ビジョンを持ち、それに向かってみんなで向かっていく姿勢になりたいという意見がありました。
- ・ビジョンとしてカーボンニュートラル実現が挙げられ、尾鷲の豊かな森林や海洋資源（ブルーカーボン）などが生み出す酸素と脱炭素効果を活かす取組を推進し、またその意識を子供への教育で意識づけることを進めるべきというアイデアがありました。それにより電気自動車の購入や地場木材を使った住宅の建築など、市民一人ひとりの環境に配慮した行動へと繋がり、行政もそれを支援することによって、環境都市として市外にもアピールできるものになるのではという意見がありました。
- ・排出する二酸化炭素を実質ゼロにするというカーボンニュートラルの目標を超え、むしろ酸素を生み出すまちになるというアイデアがありました。

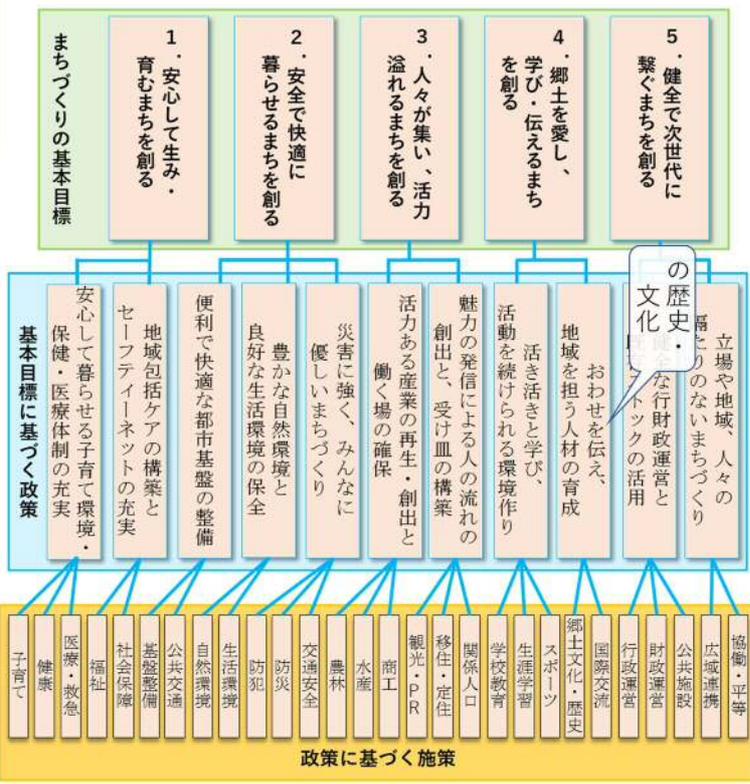
計画の体系

資料2-2（2-1を見直し・修正した事務局案）



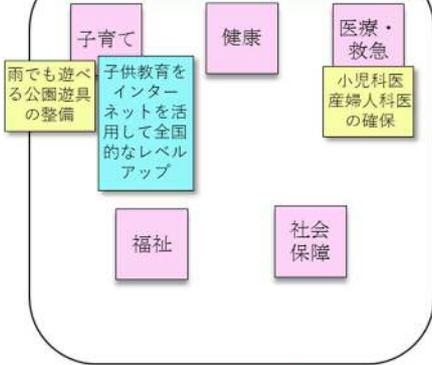
＜まちの将来像＞
住みたい・住み続けたい
ふるさと“おわせ”の再生

まちづくりの基本目標を通じて、まちの将来像を実現

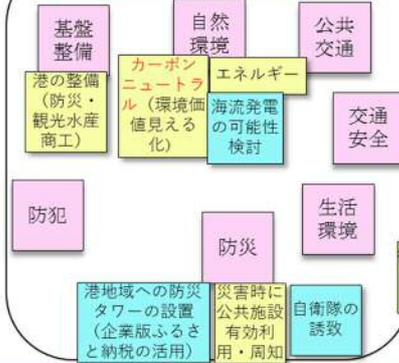


とんがり帽子

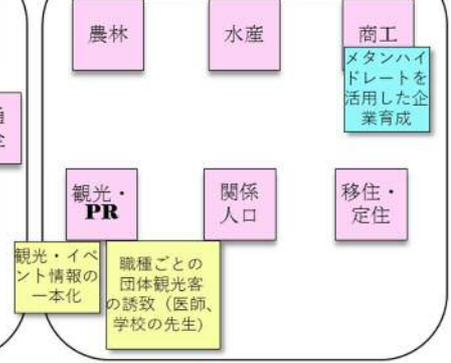
1. 安心して生き・育むまちを創る



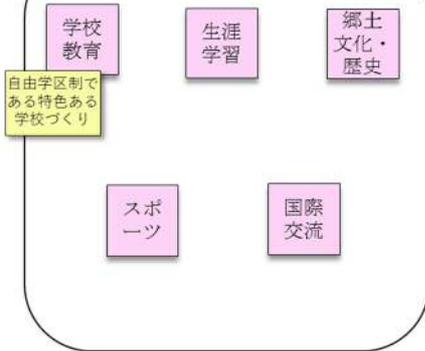
2. 安全で便利に暮らせるまちを創る



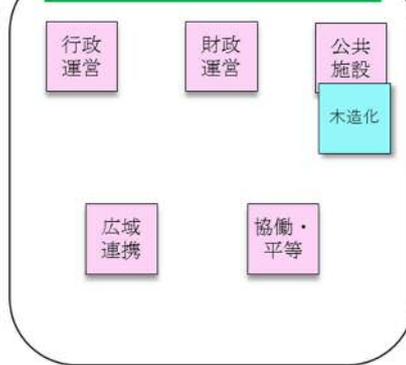
3. 人々が集い、活力溢れるまちを創る



4. 郷土を愛し、学び・伝えるまちを創る



5. 健全で次世代に繋ぐまちを創る



Aグループ

Bグループ

【計画の体系について】

- ・計画の体系は、おおむね下記記載の事務局（案）でよいとされました。
- ・「基本目標に基づく政策」「政策に基づく施策」において、同じ言葉が入っているため、分けたほうが良いという意見がありました。
- ・「魅力の発信による人の流れの創出と、受け皿の構築」について、「魅力ある発信」のほうが良いのではないかと意見がありました。
- ・「健全な行財政運営と既存ストックの活用」について、「ストック」という言葉が難しいのではないかという意見がありました。

討議の概要

【とんがり帽の事業について】

- ・福祉の分野では、高齢化の進行や地域のつながりの希薄化が進む中で、寄り合いの場所となる、高齢者の集うサロンを作ってもいいのではないかと意見がありました。
- ・防犯や子供たちの安全のために、廃屋の撤去について考えるべきという意見がありました。
- ・「観光・PR」については最も多くのアイデアが挙がり、現在使っていない駐車場の整備や、レンタサイクル導入による回遊手段の確保、そして大きなホテルではなくゲストハウスレベルの、地元を感じられる宿を作ることによって、観光客の受け入れ態勢を充実させるべきといったアイデアがありました。

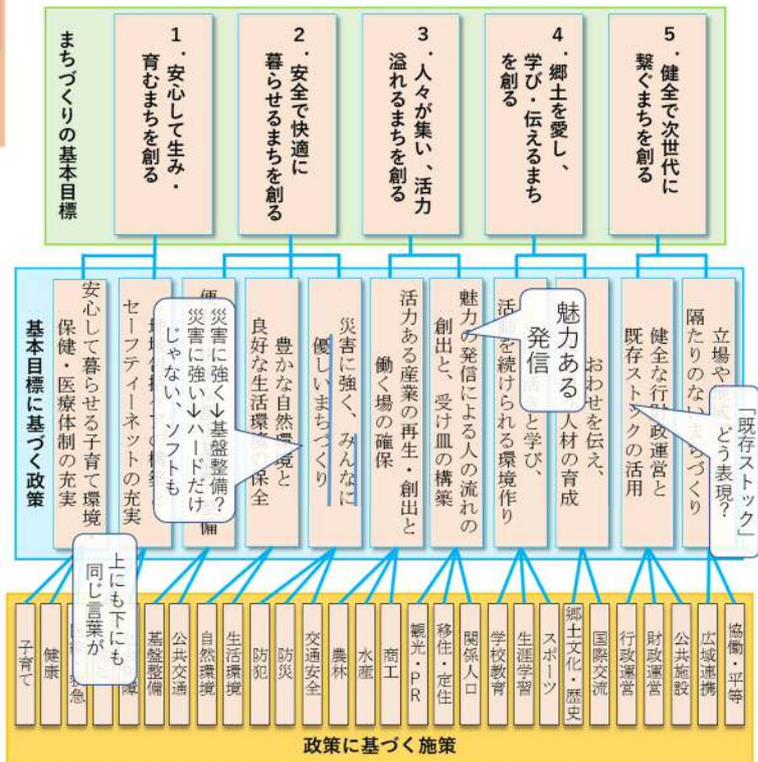
計画の体系

資料2-2（2-1を見直し・修正した事務局案）



<まちの将来像> 住みたい・住み続けたい ふるさと“おわせ”の再生

まちづくりの基本目標を通じて、まちの将来像を実現



とんがり帽子

1. 安心して生き・育むまちを創る

子育て

健康

医療・
救急

福祉

社会
保障

高齢者が
つどう
サロン

2. 安全で便利に暮らせる まちを創る

基盤
整備

自然
環境

生活
環境

公共
交通

防犯

防災

交通
安全

廃屋の撤去

3. 人々が集い、活力 溢れるまちを創る

農林

水産

商工

観光・
PR

関係
人口

移住・
定住

総合宿泊所
(食事・遊
び)

駐車場整備

レンタ
サイクル

4. 郷土を愛し、学び・伝える まちを創る

学校
教育

生涯
学習

郷土文化
・歴史

スポ
ーツ

国際
交流

5. 健全で次世代に繋ぐまちを創る

行政
運営

財政
運営

公共
施設

広域
連携

協働・
平等

Bグループ

Cグループ

討議の概要

【計画の体系について】

- ・計画体系は、おおむね下記記載の事務局（案）でよいとされました。
- ・今後市で大々的に取り組む予定である「SEAモデル」について、まちづくりの理念に追加すべきという意見がありました。また、「政策に基づく施策」についても、「3. 人々が集い、活力溢れるまちを創る」の施策分野において、「SEAモデル」を追加できないかという意見がありました。
- ・「観光・PR」について、政策のところから枝分かれしていますが、観光とその他の産業との連携も重要ということがあり、繋げてほしいという意見がありました。

【とんがり帽子の事業について】

- ・経済・財政状況の厳しい尾鷲においては、産業の分野である「3. 人々が集い、活力溢れるまちを創る」の内容が重要はないかという意見が多くなりました。
- ・定住・移住により、若者を増やすことでの税収の増加や働く場所の増加による働き手の創出が重要というアイデアがありました。
- ・定住・移住、観光、関係人口を増やすためにも、観光の面で宿や交通インフラ面などの受け入れ態勢を整え、観光客の獲得によるまちの賑わいの創出を重点として進めていくべきという意見がありました。

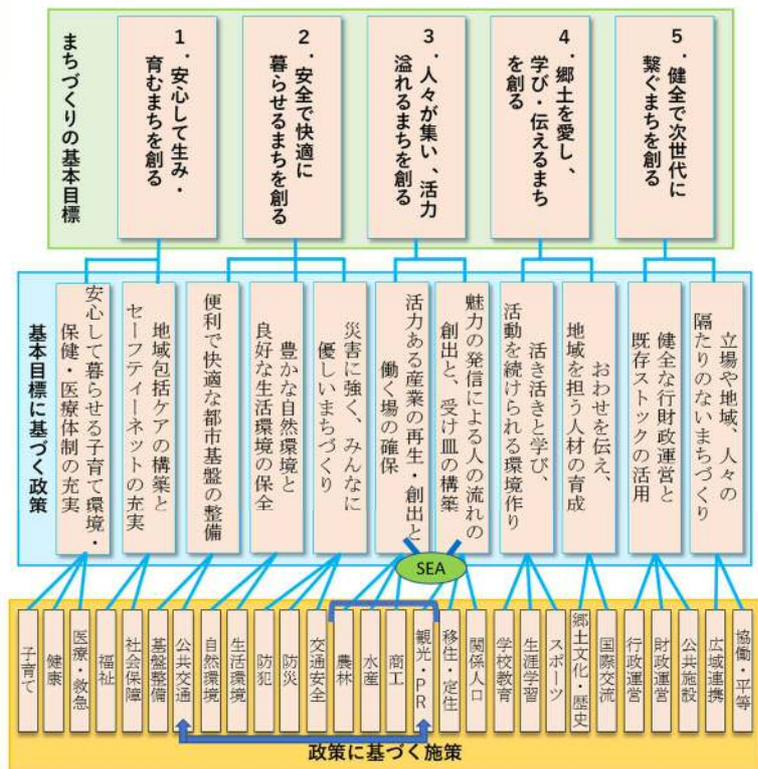
計画の体系

資料2-2 (2-1を見直し・修正した事務局案)



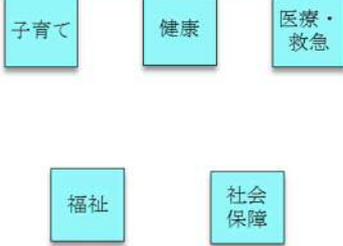
＜まちの将来像＞
住みたい・住み続けたい
ふるさと“おわせ”の再生

まちづくりの基本目標を通じて、まちの将来像を実現



とんがり帽子

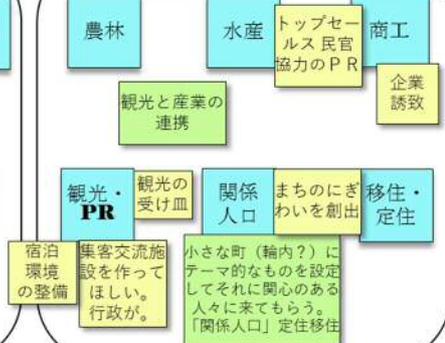
1. 安心して生み・育むまちを創る



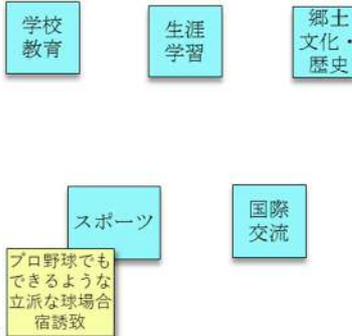
2. 安全で便利に暮らせるまちを創る



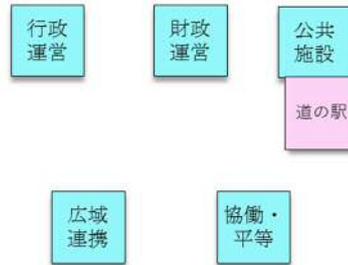
3. 人々が集い、活力溢れるまちを創る



4. 郷土を愛し、学び・伝えるまちを創る



5. 健全で次世代に繋ぐまちを創る



Cグループ

【岩崎会長による、ワーキングに対する総評】

＜計画体系についての意見発表後＞

はい、ありがとうございます。そうしますと前回議論いただいたことを市役所ベースで見直ししていただいた中で、再度この審議会としてもう一度議論を市のほうにお願いしたいなというのが、1つやはりSEAモデルの位置付けの部分か、それがあったということ。それからSEAモデルのまちづくりの理念という形で、基本目標に位置付けることがあるんじゃないかと。それから観光・PRと商工・水産・農林というような、こういうことがやはり施策としてつながっていないような形に見られているようなことはちょっと直していく必要があるのではないかなというようなこと。それから、あとは「伝える」などの文言をちょっと変えないといけないのではないかと、そういうような形で色々ご意見を頂きました。ありがとうございました。

＜とんがり帽子発表後＞

発表ありがとうございます。3チームとも色々なことをご議論いただきました。時間もちょっと足りなかったのではないかと思います。先ほど申し上げましたけどこういう機会というものは、これからは何回かあると思います。特にこのテーマを・この柱をもう少ししっかりとさせたら、今度はこのテーマに分かれる形で皆さんには、まさにとんがり帽子のようなことをテーマに則して、あるいはそれぞれを合体するような形で、例えば今日の部分でいうと、観光というのは色んな側面を持っていますから、子供が安心して遊べるような観光地というものが絶対に必要であるだろうし、あるいはお年寄りが自由に暮らせる観光地というものも必要だろうし、色んな意味での観光、そしてそこにいる人たちのホスピタリティが、何よりもまさに「おもてなし」というものが観光の基本でありますから。そうすると観光というのは色んな側面をつなぎとめるとんがり帽子の一つとなりうる話だろうと、こういうのは今日の議論として出てきたと僕は思います。それを今後は、こういった分野を統合するような形のとんがり帽子として、みんなでもう一度考える議論を次の機会としてはありうるだろうと思っていますし、カーボンニュートラルの話も、これからの時代に則して、特にいいなと思ったのはライフスタイルで考えていきたいと思いますという部分です。子供の教育の部分から家を建てるなら木造でというような、そういう話を、尾鷲だったらカーボンニュートラルを目指した生活ができますよというようなことが売りになるということもありうるだろうと思っています。そしてB班の話も、観光の話とそれから安心して生活する、安心して生活するのは基本でありますから、安心してというところに子供にとっての安心もあるし、カーボンニュートラルということで環境への安心の話もあれば、すごく直近の話としては確かに廃屋の問題というものはすごく大きいです。ただ廃屋をどうやってなくしていけばいいのか、あるいは空き家は住まなくなるとこの雨の多い土地柄ですから、すぐとんでもない状況になります。そうすると空き家をどう言うふうにも有効活用して行くかというののも一つの大きな僕にとんがり帽子になりうるだろうなと思っています。固定資産税相当分くらいを所有者にお渡しするという形にして、廃屋というか空き家をですね、リノベーションしていくというようなことを一生懸命やっている地域というのは結構たくさんあります。そのリノベーションの時に、外から移住してくる人の要望に合わせてオフィスにしてみたり、あるいは農家民泊ができるようなものにしてみたり、それを地域の皆さんが、コミュニティ大学というんですけど、コミュニティ大学としてみんながそれをやるんだと。それをやってそして地域でそれを宿泊拠点にして、あるいはオフィスにして、利活用していくというようなことを、やっているような地域も非常に増えてきました。私は

尾鷲はそういうような形で、関係人口を増やしていくというのも重要な施策だろうなと言うふうにも思いますし、そういったことが、まさに外から来る人が増えることによって、また戻ってくる人も増えていくということを期待したいと思います。そんな具体的な施策については、またあと2回くらい皆さんで議論していけるだろうと思いますので、今日は成果としてはこの資料の2-2についても少し検討をしてもらいたいという審議会としての要望があるということ、それからとんがり帽子については今日の議論を踏まえて、また改めて年度が変わってからになりますけど、とんがり帽子の議論をしていきたいと、その2点を確認させていただいて、今日は終わりにしたいと思っています。すみません、10分も過ぎてしまいましたが、このあたりで終わらせていただきたいと思います。一応以上ということにしましょう。どうぞ、お返しします。